

令和2年度

学校関係者評価書

令和3年3月23日

学校法人おもと会 沖縄看護専門学校

目 次

1 学校の理念、教育目標	1	基準9 法令等の遵守	11
2 本年度の重点目標と達成計画	2	基準10 社会貢献・地域貢献	12
3 評価項目別取組状況		4 令和2年度重点目標達成についての自己評価	13
基準1 教育理念・目的・育成人材像	3		
基準2 学校運営	4		
基準3 教育活動	5		
基準4 学修成果	6		
基準5 学生支援	7		
基準6 教育環境	8		
基準7 学生の募集と受入れ	9		
基準8 財 務	10		

1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p data-bbox="535 411 651 440">教育理念</p> <p data-bbox="147 480 1106 620">本校の教育理念は、真・善・美の全人教育すなわち、豊かな知性、感性、強い意志のある人間を形成し、「生命の尊さ」、「人間愛」を育み、看護職への誇りと向上心を培う。専門職業人として現代社会や保健・医療・福祉をめぐる環境の変化に対応し、社会に貢献できる有能な人材を育成する。</p> <p data-bbox="535 727 651 756">教育目的</p> <p data-bbox="147 799 1106 863">教育の理念に基づき、豊かな教養と人格を備え、主体的に学習し、問題解決のできる有能な看護師を育成することを目的とする。</p>	<ol data-bbox="1137 432 2085 986" style="list-style-type: none">1. 人間の生命の尊さと健康の意味・価値を理解し、人格を尊重して、心のこもった行動を取る習慣を身につける。2. 知性及び感性を磨き、調和のとれた社会人として自己成長できる基礎を身につける。3. 問題を正しくとらえ、系統的に解決できる基本的能力を身につける。4. 自分なりの看護観を持ち、倫理に基づいた看護を提供する能力を身につける。5. 保健・医療・福祉制度を統合的に理解し、多職種と協働する基本的態度を身につける。6. 地域社会の中で生活する対象を理解し、適切な援助ができる能力を身につける。7. 専門職業人として、主体的に継続して学習する研究的態度を身につける。

2 本年度の重点目標と達成計画

令和2年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>1. 本校の教育理念である真・善・美の全人教育実施 豊かな知性、感性、強い意志のある人間を育む</p> <p>2. 教育目標の達成</p> <p>3. 学生の臨地実習環境の整備</p> <p>4. 国家試験全員合格への支援…目標 100%合格</p> <p>5. 学校運営の安定</p> <p>6. 学生へのサービスの充実</p>	<p>1. 本校の教育理念である真・善・美の全人教育実施 日常の学生生活指導の中で、「知性及び感性を磨くこと」、「疑問を持つこと」、「自己の意志決定を明確にできること」そして「倫理観に基づく行動をとること」を習慣づけるよう支援する。</p> <p>2. 教育目標達成のための努力</p> <p>1) 学生の主体的な学びを育むための教育方法の充実 (1)プロジェクト学習 (2)シミュレーション教育(3)協同学習</p> <p>2) 非常勤講師の安定的確保及び継続困難時を想定した対応</p> <p>3) 教員の資質向上のための研修 (1)日本看護協会学術集会をはじめ各種看護学会への参加 (2)沖縄県看護教育協議会 専任教員再教育研修の継続 (3)臨床実践力の維持・向上のための研修、他</p> <p>4) 教職員の職責及び業務分掌の実践と評価</p> <p>5) 教員のモチベーションアップのための目標管理の実施および評価</p> <p>6) 専任教員及び実習指導教員の安定的充足</p> <p>3. 学生の臨地実習環境の整備</p> <p>1) 安定した実習施設の確保及び急な断りへの備え</p> <p>2) 効率的な実習指導体制づくりの強化(実習施設との連携・協力体制)</p> <p>3) リスクマネジメント指導及び守秘義務遵守の指導</p> <p>4. 国家試験全員合格への支援…目標 100%合格</p> <p>1) 各学年で計画した国家試験対策の実施と評価</p> <p>2) 成績不振者への支援の徹底</p> <p>5. 学校運営の安定</p> <p>1) 学校法人の円滑な運営</p> <p>2) 様々な通信手段により発生する危険から学校・学生の安全を図る。</p> <p>3) 看護学校自己点検・自己評価の推進と公表</p> <p>4) 予算すなわち決算の遵守</p> <p>6. 学生へのサービスの充実</p> <p>1) おもと会と体へのヘルスケアセンターの紹介</p> <p>2) 年齢差のある学生への丁寧な対応</p> <p>3) 行動や学力、健康維持に問題のある学生への支援と家族との連携</p> <p>4) 諸感染症予防の指導</p> <p>5) 防災訓練の実施 (1)火災時避難訓練 (2)地震・津波時訓練</p> <p>6) 登下校中及び学内での安全対策 (1)交通安全指導 (2)生活安全(3)名札の徹底</p>

基準 1 教育理念・目的・育人人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念・教育目的・教育目標・育人人材像は明確に定められている。また、教育目的・教育目標・育人人材像や教育課程は教育理念を実現する内容となっている。それらは、入学式当日の保護者説明会、学生後援会総会等で学生や保護者に周知しており、年度末にはホームルームで学生と共に読み合わせ達成度の確認をしている。</p> <p>教育課程は厚生労働省の保健師助産師看護師学校養成所指定規則を満たしている。また、教育内容は実習施設や卒業生からの意見も参考にし、社会の状況や学生のレディネスに対応していけるよう教員全員で毎年見直しを行っている。自ら学ぶ学生を育む教育方法として、プロジェクト学習、シミュレーション教育、ユニフィケーションシステム、協同学習を導入している。</p> <p>教員採用に関しても保健師助産師看護師学校養成所指定規則を満たしており、看護教育に対する情熱と専門領域の臨床経験を重要視し選定している。</p> <p>看護学臨地実習は厚生労働省に申請認可された実習施設の協力を得ている。また各実習施設の理解を得るための説明会を重ね、臨床実習指導者の協力を得ながら人材を育成している。</p> <p>課題 社会の変化に伴い看護基礎教育に求められる教育内容も変化している。教育理念に基づき、目的・目標カリキュラムの再検討が必要である。</p>	<p>現在、カリキュラム検討委員会を中心に全教員で現カリキュラムの編成と新カリキュラム構築に向けての準備を進めている。</p>	<p><u>プロジェクト学習</u> 学生の主体的な学習への取り組み支援として入学前からプロジェクト学習を取り入れている。それはキャリアポートフォリオとして学生のキャリア支援へつながる。</p> <p><u>シミュレーション教育</u> 看護実践力の向上を目指しシミュレーション教育方法を取り入れており、ほとんどの領域で実践されている。</p> <p><u>ユニフィケーションシステム</u> 学内での基礎技術演習（基礎看護学、老年看護学、小児看護学、在宅看護論、精神看護学）では、実習施設の指導者の参加協力を求め双方の教育力向上を目的に意見交換をしている。</p> <p><u>協同学習</u> 学生の主体的な学習への取り組み支援として全員参加型の協同学習の手法を取り入れている。アクティブラーニングの一つであり学生の主体性に繋がる。</p>

学校関係者評価委員の意見・提言

意見・提言は特になく、妥当と思われる。

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念・教育目的・教育目標の達成にむけて運営方針を明確に定め、教育事業計画書に明文化している。年度末には教職員全員で学校自己点検自己評価を行い、学校関係者評価の結果も踏まえ重点目標を定め達成に向け全員で取り組んでいる。</p> <p>学校法人おもと会理事会及び評議員会は、学校法人おもと会寄附行為に基づき予算理事会、決算理事会を開催し議事録を作成している。</p> <p>学校運営に関して教職員及び学生会は、組織規程、組織図、各会議等の決定権限、委員構成等を明文化し教職員や学生に周知している。議事録は開催毎に作成保存している。</p> <p>教職員の採用基準・採用手続きは規程等で明確にしており、教職員の採用に関しては適切な採用広報を行い、関係団体の協力も得ながら必要な人材を確保している。将来的に看護教育に携わる可能性のある看護師にむけアンテナを高くし声掛けを継続する。</p> <p>おもと会で人事考課制度は整備されており事務部門から実施している。</p> <p>教職員支援として「おもと会心と体のヘルスケアセンター」を整備している。</p> <p>教職員の給与や昇任・昇給等に関する基準・規程は整備され適切に運用している。情報管理システムを構築し、情報の共有化・効率化を図っている。システムのメンテナンス及びセキュリティー管理はおもと会組織内のシステム課職員が常時対応し、適切に行っている。</p>		<p>「心と体のヘルスケアセンター」 教職員、学生に向けておもと会の「心と体のヘルスケアセンター」が整備され、予約し無料でカウンセリングが受けられる。</p>

学校関係者評価委員の意見・提言
<p>意見・提言は特になく、妥当と思われる。</p>

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念・教育目的・教育目標を反映した教育課程を編成しており、厚生労働省の保健師助産師看護師指定規則を遵守している。教授科目の目標や教育内容、単位数・時間数は適切であり、卒業要件を満たし学生便覧や学校案内等に明示している。授業形態や授業方法も適切であり、シラバスは教育内容や教育方法を検討しながら毎年評価修正している。</p> <p>在校生の授業評価や卒業生（卒後 6 か月目）の意見は教育課程に反映させている。また、学内演習に協力して頂く TA からの意見や、実習指導者協議会での意見は講義や演習・実習へと反映させている。</p> <p>キャリア教育に関して、学生は入学前学習会で各個人のポートフォリオを作成しその後 3 年間を通してキャリアポートフォリオを作成している。キャリアアップの動機づけとして認定看護師免許を取得している卒業生の講話を実施している。</p> <p>成績評価の基準は学生便覧に明示し入学時に学生および保護者に説明している。単位認定および卒業認定は認定会議において適正に判定している。また、社会人入学生に対しては、入学前の履修科目を規定に照らして単位認定している。</p> <p>看護師国家試験合格支援として、全員合格を目指し教職員全員で支援している。国家試験不合格者に対しても在学生同様の支援を継続している。</p> <p>H30 年度より非常勤講師へ授業評価について理解いただき評価結果を返している。次年度から 2022 年の新カリキュラム施行に向けて教育課程の編成方針、実施方針を具体的に進める。</p> <p><u>課題</u>：①教育課程の編成方針、実施方針の検討 ②教育到達レベルを明確にする必要 ③全学年一貫した国家試験対策策定の必要 ④現行カリキュラムの総括的評価</p>	<p>①②新カリキュラム検討会議において教育課程の編成方針、実施方針を具体的に策定する。</p> <p>①②新カリキュラム検討会議において修業年限に応じた教育到達レベルを明確にする。</p> <p>③国家試験対策に関するプロジェクトチームを編成し、切れ目のない国家試験対策を策定する。</p> <p>④カリキュラム検討委員会、領域会議、カリキュラム検討会議等で、計画的に現行カリキュラムの総括的評価を行う。</p>	<p><u>学生へのキャリア教育支援</u> 入学前にポートフォリオ作成を体験する。 入学後は 3 年間を通してキャリアポートフォリオを作成していく。 認定看護師等の特別講義の実施卒業生の来校時や実習施設訪問時に意見を頂き、キャリア教育に反映させている。</p> <p><u>看護師国家試験合格支援</u> 各学年での対策会議 適時学生の面談及び指導 全国模擬試験受験準備 校内模擬試験の作成 特別講義の準備 教員管理で 20 時までの教室使用 日曜祝祭日 少人数特別クラスの支援 国家試験手続きの指導 国家試験当日の支援 合格発表日の支援 不合格者の支援</p>

学校関係者評価委員の意見・提言

意見・提言は特になく、妥当と思われる。

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特 殊な事情等）
<p>就職率 100%を目標としている。学生は教育システムが整いキャリア形成ができる職場を希望しており第一希望の職場への就職を支援している。3 月に 1・2 年生を対象に学内で就職説明会を実施している。学生は自主的に業者主催の就職説明会や病院主催のオープンハウスへ参加しながら就職に関する視野を広げている。進路担当教員は適時アンケート調査を行い就職状況の把握と教職員への周知を図っている。</p> <p>令和 2 年 3 月時点で卒業生 2347 名を輩出し、県内外へ就業・進学し、活躍している。看護師国家試験合格は 100%を目標としており、令和 2 年度国家試験合格率は 100%であった。 現行の国家試験対策に、国家試験専門業者の対策講座を導入したことは効果的であった。</p> <p>卒業生の社会的評価に関しては、学校長が実習病院を訪問して卒業生の動向を把握している。また県外就職先に関しては、就職担当事務職員が連携を図りながら把握している。卒業生の卒業後の免許及び資格取得の動向を把握し在学生へも紹介している。</p> <p>課題：学生のニーズに合致した国家試験対策講座を提供する必要がある。</p>	<p>①次年度国家試験対策講座を学生のニーズに沿って精選する。</p>	

学校関係者評価委員の意見・提言

意見・提言は特になく、妥当と思われる。

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生への就職等進路に関して就職担当教員と就職担当事務職員は連携しており、学生の就職活動の状況はデータ化し学内で共有している。</p> <p>学生の学業継続の相談に関しては、学年担当教員や学校長が保護者を交えて面接を実施している。また、学生の心身への支援として、おもと会「心と体のヘルスケアセンター」を整備している。センターの職員が4月に学生全員へセンターの役割や機能を紹介し相談しやすい環境を準備している。学年担当教員は4月に全学生の個人面談を実施している。令和2年度退学者は0名であった。</p> <p>学生の経済面に対する支援として困窮している学生には各奨学金の紹介や個別相談に応じている。大規模災害発生時及び家計急変時等に対する支援制度は整備している。</p> <p>定期健康診断、予防接種計画は保健師助産師看護師学校養成所指定規則に準じている。学校医はおもと会の医師が担当しており、有所見者への対応は各学年健康管理担当教員が行っている。</p> <p>卒業生への支援として同窓会が結成され、活動の活性化に向けた支援をしている。卒業後6か月目の支援としてカミングスクールデイを開催している。</p> <p>課題</p> <p>①学生の情報共有が難しい。 ②教務室に直接相談しにくい環境がある ③学生自身が意識的に自己の健康管理を行える 問題発生時の教員間での具体的な連絡方法（アルゴリズム）が整っていない。</p>	<p>①②学生が相談しやすい環境整備が必須（専任カウンセラーの常駐等）。 教員全体で情報共有する体制づくり。</p> <p>③学生自身で意識的にセルフケアができる支援体制。</p> <p>④図式化で全体周知ができるよう作成する。</p>	<p><u>学生への就職・進学支援</u></p> <p>1・2年に対する就職支援 3月に学内で就職説明会を実施している。</p> <p>3年生に対する就職・進学指導 個別の相談 面接の受け方 履歴書の書き方 論文対策を実施している。</p> <p><u>学生へ紹介している奨学金</u></p> <p>学校独自の奨学金制度 大浜方栄奨学金 成績人物ともに優秀な学生に与えられる</p> <p>その他の奨学金制度 日本学生支援機構 沖縄県看護師修学資金 教育訓練給付金 高等職業訓練促進給付金</p>

学校関係者評価委員の意見・提言

意見・提言は特になく、妥当と思われる。

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校施設・設備・機器類は設置基準、関係法令を遵守し充実している。学生の休憩・食事は教室を使用している。しかし、更衣室が3か所設置されているが、環境調整が必要な状況である。施設内はバリアフリー化に取り組んでおり、手洗い設備など衛生管理は徹底している。卒業生は申請により施設・設備を活用できる。施設・設備等は日常点検や定期点検を行い適時補修している。</p> <p>実習環境として臨地実習の意義や教育課程上の位置づけを実習要綱に明示している。実習施設で実習協議会を持ち指導者と連携している。また、実習成績評価は評価基準を明確にし教育効果を確認している。</p> <p>学校行事は学生会を中心に学生主体で行っている。</p> <p>防災に関しては、学校防災計画、消防計画や災害発生時における具体的行動マニュアルを整備している。施設・建物・設備は耐震化に対応している。また消防設備等の整備及び保守点検は法令に基づき行い、年1回東部消防署の協力のもと防災訓練を実施し助言を受けている。本棚などの転倒防止対策は実施している。学校の安全管理として、学生の生命と学校財産を加害者から守るために防犯体制を整備し、学内では名札着用を義務付けている。実習室の薬品など危険物は鍵付き収納庫へ保管している。実習中の災害発生時の避難マニュアルは全施設で完成し実施している。学生と教員は全員総合補償制度（WILL）へ加入している。</p> <p>課題</p> <p>① 教職員・学生への防災教育は不十分である。</p> <p>② 授業中の事故に対するマニュアルが必要である。また、学生を含めた実施研修会が必要である。</p> <p>③ 具体的行動マニュアルの活用がされていない</p>	<p>①教職員および学生に対して防災教育を実施する。</p> <p>②防災・減災委員会の立ち上げ。授業中の事故に対するマニュアル作成及び学生を含めた実施研修会の計画・実施する。</p> <p>③災害時における具体的行動のリーフレットを作成し、常時掲示板に掲示する。</p>	

学校関係者評価委員の意見・提言
<p>意見・提言は特になく、妥当と思われる。</p>

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集に関して、学校説明会を開催し「学校案内」を作成している。また、教職員は高校主催の職業教育や学校説明会で看護職や教育課程について説明している。高校の教員や入学希望者、保護者に向けた学校案内の広報としてホームページにブログを掲載し学校の様子が伝わるように工夫している。ブログは、教員と事務が連携することにより、定期的に更新を行うことが出来ている。また、SNS を活用した情報発信を実施できている。ホームページはスマホにも対応している。</p> <p>また、オープンキャンパスでは、模擬授業や在学生から直接学生生活を聞けるような工夫を行っている。志願者等からの入学相談には丁寧に対応しており、「学校案内」等で特徴ある教育活動や学修成果について紹介している。</p> <p>入学試験に関しては県内看護系大学 3 校、専門学校 4 校の入試計画を把握し本校の入学試験を計画している。</p> <p>入学選考基準や方法は、規程で明確に定めており適切に行っている。受験者数・受験倍率・合格率・辞退率のデータは適切に管理している。</p> <p>学納金の内容は明確にし、学納金等徴収する金額はすべて募集要項に掲載している。また、文部科学省通知に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱は、募集要項等に明示し返還している。</p>		<p><u>教職員の学生募集活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校案内パンフレットの作成 学校ホームページ（ブログ・SNS 発信・Web 活用） 学校説明会（高校の進路担当教員、塾講師） オープンキャンパス（2回） 学内で高校生へ学校案内と職業体験 各高校で職業教育 各高校で職業体験 各高校で学校説明会

学校関係者評価委員の意見・提言

意見・提言は特になく、妥当と思われる。

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特 殊な事情等）
<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、予算未執行と予算外費用が発生する事もあったが、防止策に 取り組み順調に運営する事ができた。</p> <p>学校法人は安定した財務状況である。中長期的に学校の財務基盤は安定しており、適切に会計監査を受けている。また、私立学校法に基づく財務情報については、当校ホームページで公開している。</p> <p>学生募集においては、3年ぶりに目標値の受験者数を確保することができた。</p>		<p>事業活動収支計算書の作成（月次） 経営会議（経営戦略会議4半期に1回）</p>

学校関係者評価委員の意見・提言
<p>意見・提言は特になく、妥当と思われる。</p>

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令の設置基準に基づき、学校運営及び諸届等を適切に行っている。また学校運営に必要な規則・規程等を整備し適切に運用している。</p> <p>学校安全委員会でハラスメント等の防止の方針を明確化し対応マニュアルを修正している段階である。教職員、学生に対してコンプライアンスに関する相談窓口は設置されている。また、教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っている。</p> <p>個人情報保護に関しては、取扱方針・規程を定めており、学生・教職員・非常勤講師は個人情報保護に関する承諾書を提出している。情報の取り扱いと危険性、個人の責任についての意識を高めることを目標に情報科学の講義を実施。今後は実習中の個人情報保護の取り扱いの強化を図る。</p> <p>平成 18 年度から学校自己点検自己評価に取り組んできた。平成 28 年度以降は学校関係者評価委員会も開催し新たな視点での評価を頂き学校の質の向上に努めている。評価結果は報告書に取りまとめホームページで公表している。</p> <p><u>課題</u></p> <p>①ハラスメント防止マニュアルを修正段階。今後順次運用に向けて取り組む。</p> <p>②個人情報保護に関して学生の意識づけを強化する取り組みが必要。</p>	<p>①「ハラスメント防止ガイドライン」の勉強会を 3 月に実施予定。</p> <p>②現状を把握している段階のため、今後の取り組みについて検討し順次学生へ周知徹底できるように働きかける。</p>	

学校関係者評価委員の意見・提言

意見・提言は特になく、妥当と思われる。

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校は、実習病院や他養成校、看護系大学、沖縄県と連携しながら運営している。学生の就職に関しては実習病院を中心として沖縄県内の医療施設に貢献できるよう就職指導をしている</p> <p>学校施設・設備等は地域・関連業界等・卒業生に開放している。また、高等学校が行うキャリア教育の授業に教職員を派遣し協力支援している。</p> <p>社会環境問題への意識づけとして節電や節水などの省エネ対策や、学内外の清掃活動などを行っている。また、教職員・学生に対し、SNS等情報化社会の中での個人情報保護に関する教育を行っている。学生ボランティア活動に関しては、医療・福祉関連の施設や、地域活動として推奨しているが、今年度は十分な実施に至らず。学生の活動実績は把握し記録として保存している。</p>		<p>教員による職業講話「看護師への道」</p> <p>高校主催 5 校（内教員 5 校） 57 名受講</p>

学校関係者評価委員の意見・提言
<p>意見・提言は特になく、妥当と思われる。</p>

4 令和2年度重点目標達成についての自己評価

令和2年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1. 本校の教育理念である真・善・美の全人教育実施 豊かな知性、感性、強い意志のある人間を育む</p> <p>2. 教育目標の達成</p> <p>3. 学生の臨地実習環境の整備</p> <p>4. 国家試験全員合格への支援…目標 100%合格</p> <p>5. 学校運営の安定</p> <p>6. 学生へのサービスの充実</p>	<p>1. 本校の教育理念である真・善・美の全人教育実施 日常の学生生活指導の中で、「知性及び感性を磨くこと」、「疑問を持つこと」、「自己の意志決定を明確にできること」そして「倫理観に基づく行動をとること」は学年目標を意識しながら習慣づけるよう支援した。卒業生像を達成するための学年計画は実施できた。</p> <p>2. 教育目標達成のための努力</p> <p>1) 学生の主体的な学びを育むための教育方法の充実 プロジェクト学習やシミュレーション教育、協同学習は各学年、各領域で実施された。</p> <p>2) 非常勤講師の安定的確保及び継続困難時を想定した対応 教員の変更はあったが教育計画は滞りなく終了した。</p> <p>3) 教員の資質向上のための研修 日本看護協会学術集会をはじめ各種看護学会や、沖縄県看護教育協議会の専任教員再教育研修へ参加し自己研鑽に努めた。</p> <p>4) 教職員の職責及び職務分掌の実践と評価 教職員は職務分掌に基づき職責を果たした。</p> <p>5) 教員のモチベーションアップのための目標管理の実施および評価 全教員がビジョンゴールの実施及び評価、学校長面談を行った。</p> <p>6) 専任教員及び実習指導教員の安定的充足 専任教員は年間を通してほぼ充足された。 実習指導教員は大浜第一病院からの出向で2名充足された。</p> <p>3. 学生の臨地実習環境の整備 実習施設及び実習指導体制は安定しており年間実習計画は終了した。</p> <p>4. 国家試験全員合格への支援…目標 100%合格 各学年の国家試験対策は予定通り終了した。国家試験専門業者の講習会は学生後援会の支援で実施した。国家試験合格率は %だった。</p> <p>5. 学校運営の安定 定員を確保し予算すなわち決算を遵守し運営は安定している。学校関係者評価を行い教育の質の向上に努めるとともに結果を公表する。</p> <p>6. 学生へのサービスの充実 行動や学力、健康維持に課題のある学生に対しては家族と連携しながら支援を続け学生の課題は解決された。 学生の安全を守る為に、SNS に関する注意喚起、防災訓練や交通安全・生活安全対策を実施した。 3年生への進路相談、面接練習や履歴書記入などは個別に対応した。 3月の就職説明会は感染対策を講じながら県内施設のみ実施した。</p>	

学校関係者評価委員の意見・提言

意見・提言は特になく、妥当と思われる。